

教科(科目)	国語総合(古典)	単位数(時数)	3単位(111)	学年(科)	1学年(情報科学科)
使用教科書	・東京書籍『国語総合 古典編』				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベネッセコーポレーション『ベネッセ全訳古語辞典(改訂版)』</li> <li>・大修館『新漢語林 第二版』</li> <li>・いづな書店『key&amp;Point 古文単語 330 改訂版』</li> <li>・第一学習社『新版五訂完全マスター古典文法』</li> <li>・尚文出版『必携新明説漢文』</li> <li>・第一学習社『新訂総合国語便覧 新版四訂』</li> </ul>				

### 1. 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

### 2. 指導の重点

- ① 古文・漢文の学習を通して、「読むこと」「書くこと」等の基本的な言語事項の習得を図る。
- ② 文語のきまり、訓読のきまり等の定着を図る。
- ③ 自ら積極的に古典の世界に関心を持つ態度を養う。

### 3. 評価規準と評価方法

#### 〈評価の観点〉

- ・伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り、言葉の成り立ちや古典文学の価値に気づき、進んで知識を身につけようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化して話し合ったりしている。(話す・聞く能力)
- ・人物の行動や言動、心情などを適切に読み取り、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめている。(書く能力)
- ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。(読む能力)
- ・表現や読解に活かすべく、語彙力を磨き、知識を身につけようとしている。(知識・理解)

#### 〈評価方法〉

評価の観点をふまえ、定期考査、長期休業後の課題テスト、小テスト、ノートや提出物の内容、授業の取り組みなどから、総合的に判断する。

### 4. 学習アドバイス

- ① 古語のきまりを理解し、文法や語彙をしっかりと身に付けましょう。基本事項を理解し、繰り返し学習していくことが必要です。古典は努力の科目であることを胸に刻みましょう。時間をかけて積み上げていけば、必ず成果が上がります。地道な努力を続けていくことが、古典学習の鍵です。
- ② しっかりと予習し授業に臨みましょう。初見の文章を自分の力で読み進めることで力がつきます。そして、予習段階で生じた疑問を授業で解決し、丁寧に復習するというサイクルを大切にしてください。
- ③ 授業中に分からなかったところは、必ず質問して理解を深めてください。復習を通して定着を図り、小テストや考査などには時間をかけて準備をし、しっかりと内容を定着させましょう。
- ④ 時空を超えて作者と対話し、現代にも通じる古典の魅力を味わいましょう。(担当：松井 武文)

月	単元・考査等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	「検非違使忠明」	4	古文に親しむ（古典文法基礎）	<ul style="list-style-type: none"> <li>古文に親しみを持ち、話の面白さを理解する。</li> <li>文語と口語の違いを理解する。[古語辞典の引き方に慣れる]</li> <li>芸術至上主義や職業意識について話し合い、理解を深める。</li> </ul>
	「絵仏師良秀」	4 (8)		
5	「竹取物語」	4	物語（一）	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔話としてなじみのある作品を通して、口語訳の力を身につける。</li> <li>用言を中心に文法事項を理解し、口語訳に生かす。</li> </ul>
	「徒然草」(一)	4 (8)	随筆	
6	漢文入門 －「訓読の基本」 ※ 中間考査	10 (10)	漢文に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢文に親しみを持ち、話の面白さを理解する。</li> <li>漢文の構造を理解する。[漢和辞典の引き方に慣れる]</li> </ul>
7	「土佐日記」	3	日記	<ul style="list-style-type: none"> <li>日記文学の特質を理解する。</li> <li>文章の表現上の特色を理解する。</li> <li>基本的な助動詞を理解する。</li> <li>漢詩のきまりを理解し、中国古典文学に関心を持つ。</li> </ul>
	唐代の詩文－「唐詩」	6 (9)	漢詩に親しむ	
8	漢詩を作る	4	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢詩のきまりに従って、自分で漢詩を作る。</li> <li>和歌の修辞を把握し、口語訳する。</li> <li>助動詞について理解し、口語訳に生かす。</li> </ul>
	「伊勢物語」(一)	4 (8)	物語(二)	
9	「伊勢物語」(二)	6	物語(三)	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌物語における和歌の役割を理解して内容を把握する。</li> <li>軍記物語の特質や表現上の特質を理解する。話の構成や人物の行動・心情を読み取る。</li> <li>敬語について理解し、口語訳に生かす。</li> </ul>
	「平家物語」	6 (12)		
10	唐代の詩文－「文」・史話	6	漢文	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の表現・構成の巧みさを理解する。</li> <li>中国の歴史書の文学性を理解し、思考力を養う。</li> <li>古代中国人のもの見方・考え方を知り、それとの比較を通して、日本文化を深く理解する。</li> </ul>
	漢文入門 －「故事成語」	4 (10)	漢文に親しむ	
11	「徒然草」(二)	12 (12)	随筆	<ul style="list-style-type: none"> <li>文法事項の総復習。</li> <li>文章の構成を捉える。</li> <li>作者の思想や感情を読み取る。</li> </ul>
12	百人一首 ※ 中間考査	10 (10)	和歌に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌の修辞技巧を理解した上で、和歌に詠み込まれた心情を理解する。</li> <li>百人一首大会を通して、和歌に親しむ。</li> </ul>
1	「古典を自分の言葉で書き換える」	4	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典を自分の言葉で書き換えることで、伝統的な言語文化への興味・関心を広げる。</li> <li>表現の仕方に注目しつつ、随筆に表れた作者の考えを踏まえ、もの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</li> </ul>
	「枕草子」	4 (8)	随筆	
2	「論語」「孟子」 ※ 期末考査	6 (6)	思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>儒家思想の概略を捉える。</li> <li>儒家思想が、現代においてどのような意味を持っているかを考える。</li> </ul>
3	「奥の細道」	6	俳諧紀行文 言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳諧紀行文を読んで、自然・人間などに対する作者の思想や感情を読み取る。</li> <li>桜を題材とした古典和歌と近現代の和歌を比較することにより、桜が日本の文化や精神性にどのような影響を与えているか理解を深める。</li> </ul>
	「桜の歌を読み比べる」	4 (10)		

計 1 1 1 時間（4 8 分授業）